

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p><u>上位目標：対象地域の生活環境が改善する。</u></p> <p>本事業は、首都テグシガルパ市の3地区において、生活環境の改善を目指し、3年計画で実施されているものである。本年度はその2年次に位置づけられ、1年次に育成した青少年リーダーならびにコミュニティ・メンバーが他の青少年への教育（ピア・エデュケーション）や地域活動を主体的に実施することを通じて、コミュニティ活動の立案と実践に係る運営能力を強化させた。清掃活動や植林活動、壁画作成などの活動が、多くの住民の参加を得、また、学校や保健所、地域警察、NGOなどの多様なアクターと連携して行われた。その結果、地域の衛生環境、景観が改善されるとともに、地域の一体感が醸成され、そこに居住する住民にとって住みやすい環境に変化しつつある。来年次の事業の実施を通じて、生活環境がさらに改善されることが期待される。</p>
(2) 事業内容	<p>活動1：コミュニティ・グループのメンバーの能力向上</p> <p>対象3地区（アレマン地区、ラ・ホヤ地区、フロール・デル・カンポ地区）のコミュニティ・グループメンバーに対し合計5回の研修を実施した。研修内容は、グループメンバーとの会合で特定されたニーズに基づき、コミュニティ活動の実施に有用なテーマを選定し、グループワークの手法を取り入れて参加者が自由に発言できるように工夫を凝らした。平均して青少年24名、成人20名が参加し、プロジェクトの実施方法、リーダーとしての資質、コミュニティ活動におけるジェンダーや年齢のバランスへの配慮、様々なアクターとの連携の方法などを学んだ。参加者からは、「普段生活しているコミュニティについてこれまであまり深く考えたことはなかったが、研修でコミュニティを客観的に見ることができた」といったコメントが得られた。この研修で得られた知識と技術は下記「活動2」の実際のコミュニティ活動の中で活かされている。また、対象3地区の9つのコミュニティ・グループが一緒に研修を受講したため、各地区での取り組みが共有され、例えば、アレマン地区でのみ実施されていた植林活動が他の2地区でも近々の活動に組み込まれるなどの効果があった。</p> <p>活動2：コミュニティ・グループの活動運営能力養成</p> <p>各地区で毎月コミュニティ・グループ会合を行い、コミュニティが抱える問題の特定とその分析を行った。その結果、対象3地区において「健康フェア」「清掃活動」「壁画作成」「植林活動」「スポーツ大会、伝統スナック販売」「映画上映会」「歯科健診」が合計18回実施された（3地区×6回）。コミュニティ・グループ活動の実施にあたっては、国家青少年協会、地域警察、国境なき医師団(MSF)、テグシガルパ市役所青少年事業(COMVIDA)など、コミュニティ内外の様々なアクターと連携して活動が行われるようになった。また、「健康フェア」では、保健所や大学と連携してブースを設置し、「植林活動」では市役所から苗木の提供を受けることができた。こうした経験を通じて、コミュニティ・グループメンバーは、地元のリソースの存在とそれを活用する意義に気づくことができた。他にも、国家青少年協会との活動連携がきっかけで、フロール・デル・カンポ地区の若年層の女性に美容研修の機会が与えられたり、同地区の図書館に映画上映セットの寄贈が決まるなど、今後もコミュニティ活動との継続的な連携が期待できる。コミュニティ・グループメンバーは、これらの活動の計画、実施、評価を重ねることで、活動の運営能力を強化した。また、ラ・ホヤ地区では、資金創出活動としてスポーツ大会時に伝統スナック販売が行われ、その収益金はコミュニティセンターの修繕に充てられるなど、持続発展性への取り組みも進められている。</p> <p>活動3：地域の青少年の育成</p> <p>(1) 青少年リーダーフォローアップ研修</p> <p>青少年リーダーに対し、フォローアップ研修を4回実施し、平均50名が受講した。主な内容は「グループ運営とやる気の出し方」「モチベーションの上げ方、感情のコントロールの仕方」「レクリエーションの仕方」「プロジェクト形成、計画」で、本事業スタッフの他、心理カウンセラー、高校教育指導者、劇団女優などが講師として招かれ実施された。本事業では、普段創造的な活動に触れることの少ない青少年リーダー達に、芸術活動を体験させるレクリエーション研修も行われ、次年度は思春期の学生達の好奇心を満たし、多くの青少年が参加できる活動を計画できるよう配慮した。</p>

(2) 青少年リーダーによるピアエデュケーション

上記フォローアップ研修を受講した青少年リーダーが、対象3地区の中高一貫校3校（アレマン地区モンテレイ校、ラ・ホヤ地区ホセ・ピネダ・ゴメス校、フロール・デル・カンポ地区サウル・セラヤ・ヒメネス校）において、各校5回、合計345人に対してピアエデュケーション（青少年が同年代の青少年に研修を行う活動）を実施した。青少年リーダーは、当事業スタッフのアドバイスのもと、「自尊心」「暴力」「薬物」「価値観」「リプロダクティブヘルス」についての研修を計画・実施・評価を実施した。こうして研修を実施していくことで、最初は緊張していたリーダーが回を追うごとに自信をつけ、研修の進め方も上達していることが確認された。また、国際青少年デー（8月12日）には、青少年リーダーが多くの青少年関連団体や政府団体が集まる中央公園にブースを出展し、多数の来場者に自分たちの活動を紹介し、ホンジュラスの「こどもの日」（9月10日）には、モンテレイ校の青少年リーダーがその日にちなんだ活動を自主的に計画し、地元の小学校を訪問して子供たちと交流するなど、自主的に活動を実施できるようになった

(3) 達成された成果

事業目標：対象地域においてコミュニティ・グループと青少年による「住みやすいコミュニティ」づくりを目指す活動の実施体制が強化される。

指標1：コミュニティ・グループの8割がコミュニティ活動を実施している。

3地区で形成された9グループの全て(10割)が活動を継続している。

指標2：青少年リーダーの8割以上が活動を継続している。

青少年リーダー50名のうち40名(8割)が活動を継続している。(なお、残りの10名は高校を卒業した生徒である。来年次開始時に新規10名を育成する予定。)

指標3：コミュニティ・グループと地元関係機関との協力体制が構築される。

コミュニティ・グループと各関係機関との会合や、コミュニティ活動を通じて、次の5団体と協力体制が構築された。1.COMVIDA（テグシガルバ市役所青少年事業）2.PASMO（米国国際開発庁、HIV予防・思春期性教育プログラム）3.MSF（国境なき医師団）4.DNJ（国家青少年協会）5.UNAH（ホンジュラス国立自治大学）。その他、自治体や民間企業などからもコミュニティ活動に対し材料の寄贈を受け、継続的な支援も見込まれる。

指標4：地域の青少年によるコミュニティ理解が深まる。

対象3地区に居住し、「コミュニティ活動」に1回以上参加したことがある青少年30名に対しアンケートを実施し、24名から回答を得た。24名全員が、参加した活動は良かったと答え、またその理由を自由回答方式で尋ねたところ、各活動の直接的な効果のほかに、コミュニティが協力し合うことの意義、若者が健全な活動に集中する効果などがあげられるなど、コミュニティ活動の意図が理解されていることが確認された。また、コミュニティに存在する団体や人材を活用したり、地域住民と共同作業をすることにより、青少年が地域住民と共に活動することで、コミュニティへの理解も深まった。

成果1：コミュニティ・グループメンバーの能力が向上する。

指標1-1：コミュニティ・グループメンバーの8割がフォローアップ研修に参加する。

対象50名のうち平均44名(9割)が参加した。

指標1-2：コミュニティ・グループメンバーの7割以上が、研修内容に関する知識・能力が向上したと認識する。

研修内容に関する知識・能力を測るテストを実施し、コミュニティ・グループのテスト対象者37人全員が研修内容に関する知識・能力が向上したと認識した。平均して82点を取得しており、事業開始前にはこうした内容を学ぶ機会が全くなかったことを考慮すると、大幅な知識の向上と言える。また、学んだ内容を活かして、実際のコミュニティ活動に応用しており、能力の向上も確認できた。

成果 2：コミュニティ・グループが自立発展的に活動を運営していく能力（計画・運営・評価する能力）が養成される。

指標 2-1：全コミュニティ・グループが「住みやすいコミュニティ」づくり活動計画を策定できる。

対象 3 地区の全てのコミュニティ・グループが 5 回ずつ（10 割）のコミュニティ活動計画を策定できた。

指標 2-2：コミュニティ・グループメンバーの 8 割以上が活動モニタリングに参加する。

コミュニティ・グループメンバーの 50 名のうち平均 40 名（8 割）が、活動モニタリングに参加した。

指標 2-3：コミュニティ・グループメンバーの 7 割以上が活動の実施状況及びその成果について把握している。

コミュニティ・グループメンバーの平均 8 割が各コミュニティ活動後にモニタリング会合に参加し、活動の成果や課題を出し合い、次回の活動に反映させた。従って、8 割のメンバーがコミュニティ活動の実施状況および成果について把握していると言える。

成果 3：地域の青少年が育成される。

指標 3-1：全青少年リーダーがフォローアップ研修に参加する。

青少年リーダー平均 50 名（10 割）がフォローアップ研修に参加した。

指標 3-2：フォローアップ研修参加者の研修理解度が 8 割を超える。

青少年リーダーの研修理解度テストの結果は平均 85%であった（8 割を超えた）。

指標 3-3：青少年育成活動が計画され、その 8 割が実施される。

青少年育成活動が各校で 5 回計画され、その全てが実施された。

指標 3-4：ピアエデュケーション対象者の 8 割以上が、内容に関する知識・能力が向上したと認識する。

ピアエデュケーション対象者 303 名に対し、研修内容に関する到達度を測るテストを実施したところ約 9 割の 264 名が合格点である 60 点以上を取得し、7 割の 213 名が 70 点以上を取得した。ほぼ全ての生徒が当該テーマについての授業を受けたことがないことから、9 割の生徒の知識が向上したと言える。

(4) 持続発展性

本事業は下記のとおり 3 年計画として実施されている事業の 2 年目に位置する。

1 年次：体制構築（青少年育成、コミュニティ・グループ形成）

2 年次：体制強化（青少年リーダーを含むコミュニティ・グループによる活動実施を通じたコミュニティ活動実施体制の強化）

3 年次：体制確立・モデル化（活動の発展、主体的なコミュニティ活動実施体制の確立とモデル化）

2 年次には、1 年次に形成された青少年リーダーを含むコミュニティ・グループがコミュニティ活動を実践することを通じて、コミュニティの活動実施体制が強化された。青少年リーダーはピアエデュケーション活動を自身で計画・実施・評価できるようになってきている。3 年次には、ピアエデュケーション活動を継続するとともに、学校職員への研修や、校内クラブ活動を通し、より多くの青少年に事業が拡大することが期待される。また、コミュニティ・グループメンバーによるコミュニティ活動についても、一定のレベルまで自身で活動をできるようになってきており、3 年次には、コミュニティ側がより自主的に運営できるようすることで、持続発展性を確保する。また、3 年間の事業の集大成として「青少年及び青少年リーダー育成マニュアル」及び「住みやすいコミュニティ活動マニュアル」を作成し、関係機関に紹介・共有することで体制の確立とモデル化を図る。